

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

7月30日に教育長より諮問を受けてから3か月である。諮問の内容を再度確認したい。1つ目は、河北町立小学校の適正規模・適正配置はどうすべきか。2つ目は、河北町立小学校の今後のあり方や将来の学校像に対する本町の基本的な方針をどうすべきか。アンケートの内容・方向を確認し、グループ討議で主体的に話し合いたい。委員の皆さんには、今、検討会で話し合っている内容を様々な場で広げてほしい。

4 報告（教育主幹）

アンケート結果について

- ・配布内容の確認 3つ
- ・グループ討議についての説明
- ・アンケート結果の説明

5 グループ討議

(教育主幹)：グループ討議の流れの説明

(付箋紙に書き込む時間5分間の後、話し合いを開始)

【グループ討議の発表】

C：テーマ1：適正配置について。多様性を知り学ぶために先生方が配慮できる子どもたちの人数は、20～33ぐらいが適正ではないか。少人数でのよいところは、子どもたちの顔と名前が一致する人数であり、子どもたちと保護者が一緒に活動できること。少人数の配置については、現在は、各小学校、各地区の方、地域の方とのつながり、学校が減少すると地域の方との交流がなくなってしまうのではないかと思う。学区の検討については様々な意見が出たが、これからの子どもたちの人数を見越したうえで、河北町の中心部に1校で、各地区の平等性を図るという意見があった。

テーマ2：テーマ1の内容とほぼ同じ意見だった。各地区・地域ごと文化ややり方、関わりは大切にしたい。特別支援については、子どもによってとらえ方や考え方が違うので、できれば低学年から見てもらえる先生をつけてもらえれば、より子どもたちの成長がみられるのではないか。

そもそも子どもたちが減っている現状は変わらない。河北町として、地域性、将来性を考えて統合を図っていく必要がある。

AB：テーマ1と2まとめて：様々なことが考えられるが、統合を頭において話したい。適正規模についても、国の基準があるためそうするしかないのではないか。地域に小学校が必要だといっても、子どもがいないのだから仕方ない。誰だって地域に1つの小学校が欲しいが、できない現状がある。学芸会などの行事ができないという現状もある。地域の人が「仕方がない」と理解するまで待つしかないのではないか。説明をして地域の人々の理解を得るようにすることも必要。

適正配置：河北町は幸い狭いので、各地区に1つ配置できる。アンケートには1つの地区に2つ3つとあるが、分け方によってけんかになると思う。どうやって分けられるのか疑問に思う。将来自然に1つになるのなら、無理やり分けなくてもいいのではないか。1つになるまで待っていたほうがいい。地域の中で取り組んできたことを継続して残していくことは大切である。

D：テーマ1：国や県で決められた人数を聞くと我々の理想は難しい。考える理想は、1クラス20人程度で複数教員が必要。クラス替えができたほうが良い。いじめの問題などもあれば、子どもが少しでも暮らしやすい環境が必要。しかし、県のさんさんプランを考えても、この理想は難しいだろう。

適正配置：統合については、中学校でいずれ一緒になるので、小学校は複数必要ではないか。少人数の学校の子どもにも、たくさん人数がいる学校の子どもにもそれぞれ良さがある。地域の方のアンケート上位にある地域活性化を大切にしたい。各地区1校ずつ残すのが理想。それを存続させるためには、どんな設備や地域の活用がよ

いか。基本的に人数の多い学校に吸収されることになるかと思うが、各地区の小学校を、移動教室のように、時期的に子どもたちが各小学校を巡回すると、地域が活性化し小学校を存続できるのではないか。新しい教育についてもアンケートの上位にあった。小学校では1人で先生がすべての教科を教えるので、専門の先生を副担任のように配置するように工夫するといろんな観点から学力が上がると思う。

テーマ2：学区見直しでの違和感は絶対出てくる。こども園や幼稚園は学区制でなく自由に保護者が選んでいるため、小学校も保護者が自由に選択できると、地域の方との交流ができるし、みんなが通える小学校になる。

E：とても難しかった。まとめが難しかった。

テーマ1：1学級の人数は20～30人がベスト。最終的には1校がいいのではないか。徐々に2～3校から1校になり、そのまま中学校へいくのがいい。学区編成が不思議だと思っていて、そこでもめるのならば、1校でいいのでは。

テーマ2：1校がベストと話し合ったので、学校がなくなる地域もあると考えた。それでも、これだけはやったほうが良いという案だが、地域に根づく祭りやイベントに参加や協力をすることで、その地域に住んでいるという意識を子どもたちがもつのではないかと思う。その意識を大切にもってもらおうと定住につながるのではないか。

他グループの意見を聞いてからの話し合い

(委員長)

アンケートは貴重な資料だが、思っていたことと同じところと違ったことがあると思う。学級規模としては、20人から30人ぐらいという意見が非常に多かったがグループでも同じだった。しかし、数の論理でいうと、6年から10年後に方向性は1つしかなく、1校にしないとできなくなるのだが、それでもいいのかということである。様々な問題があり、矛盾するものとしては、例えば地区と学校の結びつきをどのように維持していくのかということ。これは、どこの地域でも問題になっている。「おらだ」の地区から小学校をなくされると困るという考えである。しかし、中学校はそうではなく、離れてもいいと考えている。なぜ小学校は地域に密着しているのかということ。かつては学校に

期待するのは学力向上であり、今回のアンケートでは生活指導が挙げられていて、ずれがある。それを明らかにするためには、地域はどうあるべきかということをもう少し地域の人と考えていく必要がある。地域と学校の結びつきは強い。機を熟すまで待つことも必要だが、いつまで待てばいいのかということもある。実際、ある地域では、統合した後もなぜ統合したのかと未だに反対している。これをまとめていくのは難しいと委員長として感じる。諮問を受けた答申は1つにはできないということ。意見を列挙し、最終的には行政に委ねることになるが、それをもう少し詰めていく必要がある。それが地域との懇談会になる。学区ごとに懇談会を開き、地域の人はどう受け止めているのか、どう考えているのか十分に精査したうえで、まだ検討を進める必要がある。段階的統合の意見にも様々な課題がある。行政の問題もあるので、それを含めたうえで、また検討してもらい必要がある。

今日の有意義な話し合いを、家庭で、職場で、地域で広めて、さらに意見を収集してほしい。

6 その他

(教育主幹) 地区懇談会の説明。補足資料8ページ

7 閉会